



青空のもとで働こう!

“環境教育”をキーワードにたり着いたのは
沼里の森に建つ、小さなミュージアムでした。
今回は、自然からのメッセージを伝えるお仕事が登場です。

文と写真＝大石美穂
Text & Photograph by Miko Oishi



インタープリター・研究員

岩淵真奈美さん

いわぶち・まなみ
1978年、長野県松本市出身。ニックネームは「むっし」。埼玉大大学院教育学部の
小学校教員養成課程を終了後、キープやまねミュージアムの実習生を経て職員に。
趣味は「指輪のある音楽を聞き、音楽と指輪の両方を楽しむこと」。



勤務先はこんなところ!

清里で高台施設や自然学校、農場などを運営するキープ協会は、故ポール・ラッシュ博士が設立した、実践的なモデル農村コミュニティ。現在は環境教育を研究・実践する場としても知られている。やまねミュージアムでは生体展示はしていないが、いろいろな切り口からヤマネについての展示をしている。

標高1400m、夏の盛りでもカサリとした空気があたりを満ちた。八ヶ岳南麓に広がる清里高原。その森の入口に、大きなテラスがついたログハウスが建っている。ヤマネをテーマとした日本での唯一の博物館「やまねミュージアム」だ。ヤマネとは、体長8センチほどの夜行性の哺乳類。本州・四国・九州の森林に棲む一風一種の日本固有種で、国の天然記念物やレッドデータブックの準絶滅危惧種

に指定されている。一見ネズミのようにも見えるのだが、背中黒い線とふさふさしたしっぽが特徴だ。通常は樹上で生活し、枝の裏側を逆さまになって移動する。冬は落ち葉の下や朽木の中などで丸くなり、体温を0℃近くまで下げて冬眠する。昔から日本にいるのだが、まだ未知の部分も多い生き物だ。やまねミュージアムでは、ヤマネ研究者の漆秋作氏を館長に、ヤマネに因るさまざまな

な研究・調査を行っている。建物に足を踏み入れると、「こんにちは」と元気な声が届いてくる。このミュージアムで職員・研究員として働いている、岩淵真奈美さんだ。環境教育に興味をもちミュージアムの実習生に

を目指していた。在学中に子どもたちとキャンプへ行く機会があったのだが、そのときに自然のなかで遊ぶ子どもたちの笑顔がとても印象に残った。そして「自然と教育とフィールドを組み合わせた仕事ができるかな」と考えるようになった。

「調べていくうちに、環境教育という言葉を知り、インターネットで検索してみました。すると最初にでてきたのが、

やまねミュージアムを運営するキープ協会です。ホームページを見ると、実習生制度について書かれていました。そのときは小学校の先生になるつもりだったのですが、「へえ、こんな分野があるんだ」とそれくらいの気持ちでした」

02年7月、予想に反し、岩淵さんは合格の知らせを受け取った。天然記念物「ヤマネのこと」を教えるのではなく、伝えること

短い時間ではあるが、そのなかで自分のメッセージを伝えなければならぬ。岩淵さんは悩んだ。「ヤマネのことを教えるだけなら、『ふーん』で終わってしまいます。そうではなくて、ヤマネを通して何かを伝えるのがインタープリターとしての私の仕事。その何かというのがメッセージなんです。私はここにきてるまでヤマネのことを知らなかったから、短い時間とこんなことを伝えるのが、悩んで考えました。最初のガイドウォークでは緊張してき

めた。清里で迎える2度目の冬。岩淵さんは私立高校の教員採用試験を受け、内定をもらった。しかしそれと同時に、やまねミュージアムからも職員としてのオファーがきたのだ。「かなり迷いましたが、当時はヤマネがどんな生き物か少しずつわかってきたところ。せっかく天然記念物でレッドデータにも載っている生き物に関わらせてもらっているのに、こんな中途半端に辞められない。自信をもって『ヤマネをやりました!』と言えるくらいまでやってみようと思いました」

現在の目標は、「ヤマネに関する研究で博士号を取る」こと。子どもたちと同じ目線で一緒にドキドキワクワクできる大人であり続けることという岩淵さん

「面接のあ、館長の隣にたいて『ヤマネって知ってる?』と聞かれたので、『はい。よく川にいるやつですよ。虫焼かして食べるのおいしいですよ』って答えたんです。ヤマネの話と違って、そうしたら隣さんが職員の方に、「この子にヤマネを見せてあげなさい」と。ヤマネを見たとき、『あ、これは着たんだ』と思いましたが(笑)」

「二日に来る前は座学中心だったけれど、本物の自然を目の前にすると、伝わり方が全然違ってきます。自然の力というのは、やっぱり大きいと感じました」

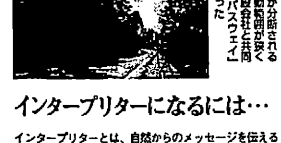
「もともと先生になりました。小学校時代の先生が、よく外で授業をしてくれたから。背空の下、風に吹かれながら勉強するのが楽しかったんです。教科書は読まないけれど、今の私の仕事って、ある意味同じなのかもしれない」

「もともと先生になりました。小学校時代の先生が、よく外で授業をしてくれたから。背空の下、風に吹かれながら勉強するのが楽しかったんです。教科書は読まないけれど、今の私の仕事って、ある意味同じなのかもしれない」

「もともと先生になりました。小学校時代の先生が、よく外で授業をしてくれたから。背空の下、風に吹かれながら勉強するのが楽しかったんです。教科書は読まないけれど、今の私の仕事って、ある意味同じなのかもしれない」

岩淵さんのお仕事拝見!

「職員になった当初、泣きそうになるくらい仕事が増えました(笑)」と話す岩淵さん。日々のミュージアム業務に加え、ヤマネの調査・研究、環境教育プログラム「やまね学校」の企画・運営など、まさにヤマネ漬けの日々を送っている。「だけど、もっともっと研究したいと思っています。やってきたことを形にして、次のステップに移りたいですね」



インタープリターとは、自然からのメッセージを伝える人のこと。専門学校などで学ぶのが王道だが、「やりたい」という気持ちが強ければこの限りではない。「知識はあるに越したことはありませんが、いろんな意味でハードな仕事なので、やりたいという強い思いが必要だ」と岩淵さん。さらに大切なのは、環境教育の現場で働くこと。環境教育といっても、いろいろな実践の場があります。まず、自分がどこに立ちたいのかを見極めてみる。就職する前に見学したプログラムに参加したりして、自分に合うかどうか見極めるの。私にとって、この仕事ややりがいは、毎日のこと。笑顔でありがとうって言ってもらえたり、子どもに「むっしみたい大人になりたい」って言われたり…。毎日のうれしい積み重ねが、「やってよかったな」につながるのかもしれない

161 | yamakei JOY/autumn

10月16日開誌月・火曜休、小学生以上
3000円(税別)・46・3877